

編集後記

10月の終わりに学会（第50回日本股関節学会学術集会）を主催しました。運よく天気にも恵まれ、現地参加者は事前の見積もりを大きく上回り、コロナ前にも劣らない盛会となりました。主催者側としてはホッと安堵するとともに、コロナ禍の収束を改めて実感する機会となりました。会場を見渡すとマスク姿はちらほら見えるものの、明らかに少数派でありましたし、着用しようとしまいと誰も気にとめていないように見えました。私自身も、マスクをポケットにはしのばせつつも着用はせず、数年に及ぶマスク着用生活からの解放を味わうことができました。一方、主催者として頭の痛い問題もありました。それは航空券や宿泊費の高騰です。特に海外招待者にかかる航空券代は円安、インフレ、燃料代の高騰のため途方もない額（おおよそこれまでの倍額）に上り、学会の運営にも影響するほどです。そのため招待者とは何度もやり取りをして、最終的には上限額を決めて招待者自身に購入してもらうことにして、わずかながら節約できました。高騰には様々な要因がありますが、その一因である世界的な紛争は早く終結して欲しいと心から祈念します。

さて、今月の特集は田中 栄先生にご立案いただいた「整形外科疾患における性差」です。たしかに私たち整形外科医は日常診療の中で性差を経験していま

す。例えば「変形性膝関節症は女性に多い」のは明らかですが、その理由について聞かれてもうまく説明できません。私の先輩は「術後の痛みには女性の方が強い」とよく言っており、その理由は「女性は出産の痛みを耐えうるために痛みに強くできている」とまことしやかに言っていました。私は「そうかもね」と思いながら、この2分法を半ば妄信していました。今回、性差医療・医学のイントロダクションから始まって変形性関節症、骨粗鬆症、関節リウマチ、側弯症、スポーツ損傷、疼痛、サルコペニア、ロコモ、小児疾患からなる特集を通読し、性差のエビデンスとその背景についての言及は大変勉強になりました。その病態は性ホルモンなどの内分泌的制御と遺伝的制御の相互作用によって説明できる疾患も少なくないですし、上記の2分法ではなく、より広い視野で捉えるべきことがわかりました。さらに重要なことは、治療効果にも性差が影響している場合があることで、整形外科治療のさらなる発展と個別化医療の進歩には性差を考慮した戦略が望まれます。

われわれ整形外科医は性差をもつ疾患を少なからず診療しています。性差に関する最新知見に触れていた

だき、読者の明日の日常診療に役立つことを期待します。

（中島康晴）

「整形・災害外科」第66巻 第13号（12月号） 2023年12月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 2,970 円（本体 2,700 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 45,980 円（本体 41,800 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 (株) 文京メディカル TEL 03(3817)8036
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。